

市町村における母子保健指導事業と 訪問指導事業の実態に関する調査研究

国立公衆衛生院公衆衛生行政学部
星 旦二

1. 目的

今後の母子保健事業を効果的、効率的に実施するためには、現在の母子保健事業の実施状況を明らかにして、その課題を具体的に抽出する必要がある。

この調査研究では、全国の市町村における母子保健事業のうち、訪問活動と、指導事業に焦点をあてて、人口規模別ないし、政令市、保健所設置市別にみた訪問と指導事業における事業の実態を把握することによって、今後の効果的な母子保健システムを検討するために不可欠な施策立案の基礎資料を得ることを調査の目的とした。

2. 研究調査内容

2-1. 調査内容

研究調査内容は、母子保健の実施実績状況とした。調査項目は、母子保健の保健指導と訪問事業実績とした。調査を実施した対象となる事業の年次は、1989年度1年間の実施状況である。調査項目は、指導事業と、訪問指導事業である。

調査の具体的な項目は、母子保健事業の指導事業と訪問事業であり、指導事業は、集団と個別の保健指導事業に分類した。一方、訪問指導事業は、新生児、妊産婦、未熟児の各訪問指導事業に分類して、それぞれの実施状況を、対象数、実施実人員、実施延べ人員、健康診査にともなう受診者の割合、事業の平均所用時間、障害児などの専門的な指導を要する者の対象者に対する割合について調査した。

表2-1. 研究調査内容

指導	集団指導	訪問	新生児訪問指導
	個別指導		妊産婦訪問指導
			未熟児訪問指導

3. 調査対象と回収状況

3-1. 調査対象

調査対象は全国の全ての市町村とし、調査時期は1990年6月より、同年10月までとした。アンケートが回収されなかったのは、東京都の全区市町村と、新潟県粟島浦村、高知県土佐山村と吾川村、福岡県北九州市と福岡市をであった。これら東京都の全区市町村と、2つの市と3つの村を除く全ての市町村3,198からアンケートが回収された。

尚、分析対象データは、厚生省母子衛生課が収集した調査票を、厚生省心身障害児研究平山班の分担研究者である郡司班の調査研究としてデータ入力基礎集計したものをベースとした。

3-2. 分析対象

調査分析の対象は、上記の3,198市町村全てとした。分析対象の、人口8区分別（以下人口区分の1.0から8.0は、下記人口区分と同一である）にみた平均の人口、市町村数と人口規模を表3-2に示した。

表3-2. 人口8区分別にみた市町村数と市町村保健婦数 （1989年度）

人 口 区 分			平均人口	人口規模の範囲	市町村数
(1.	-	2,999)	1919.749	(210 - 2,983)	255(8.0)
(2.	3,000-	5,999)	4636.061	(3,069 - 5,997)	558(17.4)
(3.	6,000-	9,999)	7891.483	(6,003 - 9,997)	687(21.5)
(4.	10,000-	19,999)	13951.227	(10,001 - 19,982)	748(23.4)
(5.	20,000-	39,999)	28077.642	(20,009 - 39,913)	452(14.1)
(6.	40,000-	99,999)	61390.932	(40,025 - 99,790)	307(9.6)
(7.	100,000-	499,999)	217895.410	(100,224 - 498,762)	173(5.4)
(8.	500,000-	)	1171522.167	(521,035 -3,199,032)	18(0.6)

3,198(100.0)

調査分析対象のうち、9つの政令市と17の保健所設置市の人口や出生の状況を表3-3に示した。北九州市と福岡市は、調査データが入手できなかったのもので、指定都市は、9つである。

表3-3. 政令市と保健所設置市の、出生、人口や妊娠届出数の状況 (1989年度)

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
------------------	-----	-----	------	-------------

出生数	26	9274.846	7870.443	8026.309
1(9.0 - 9.0)	17	4586.647	1975.151	2035.939
2(10.0 - 10.0)	9	18130.333	7186.381	7622.308

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

【対比較】 -- Bonferroniの方法 -- t 値 (自由度) 有意確率 6.984(24) 0.00000

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
------------------	-----	-----	------	-------------

人口	26	898465.385	759051.145	774083.320
1(9.0 - 9.0)	17	453829.000	170192.335	175430.243
2(10.0 - 10.0)	9	1738334.111	728649.534	772849.540

【対比較】 -- Bonferroniの方法 -- t 値 (自由度) 有意確率 6.649(24) 0.00000

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
------------------	-----	-----	------	-------------

妊娠届出数	26	9750.269	8433.691	8600.711
1(9.0 - 9.0)	17	4736.706	2082.200	2146.283
2(10.0 - 10.0)	9	19220.333	7754.234	8224.607

【対比較】 -- Bonferroniの方法 -- t 値 (自由度) 有意確率 6.942(24) 0.00000

4. 調査結果

調査対象の特性として、人口8区分別にみた各市町村の平均人口、人口規模の範囲、市町村の数を、表の3-2に示した。人口8区分別にみた平均出生数、平均妊娠届出数、市町村保健婦数の状況を表4-1に示した。

表4-1.人口8区分別にみた各市町村の平均出生数、平均妊娠届出数、市町村保健婦数（1989年度）

人 口 区 分	出生数	妊娠届出数	市保健婦数	人口10万保健婦数
(- 2,999)	15.796	15.988	0.953(0.366)	49.64
(3,000 - 5,999)	40.077	39.339	1.629(0.810)	35.13
(6,000 - 9,999)	73.691	73.207	2.074(0.929)	26.28
(10,000 - 19,999)	132.987	134.193	2.713(1.189)	19.45
(20,000 - 39,999)	278.093	281.827	4.170(3.051)	14.85
(40,000 - 99,999)	646.121	651.431	6.277(9.189)	10.22
(100,000 - 499,999)	2278.630	2375.803	13.104(9.189)	6.01
(500,000 -)	12274.889	12904.500	88.688(73.080)	7.57

出生数 : 年間出生数

市保健婦数 : 市町村保健婦数（標準偏差）

妊娠届出数 : 年間妊娠届出数

人口10万保健婦数 : 人口10万対市町村保健婦数

人口8区分別にみた年間の平均出生数を表4-2に示した。人口8区分別にみた年間の平均出生数を統計的にみると、人口規模が増加するに従って、年間の平均出生数が有意に増加している。人口8区分階級の1.0から8.0は、表4-2.に示した通りである。

表4-2. 人口8区分別にみた年間の平均出生数
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差		
出生数	3198	348.874	1218.883	1219.074	人 口 規 模	
(1.0 - 1.0)	255	15.796	8.010	8.025	-	2,999
(2.0 - 2.0)	558	40.077	13.546	13.558	3,000 -	5,999
(3.0 - 3.0)	687	73.691	18.542	18.556	6,000 -	9,999
(4.0 - 4.0)	748	132.987	35.913	35.937	10,000 -	19,999
(5.0 - 5.0)	452	278.093	77.457	77.543	20,000 -	39,999
(6.0 - 6.0)	307	646.121	201.982	202.311	40,000 -	99,999
(7.0 - 7.0)	173	2278.630	1172.949	1176.354	100,000 -	499,999
(8.0 - 8.0)	18	12274.889	7797.674	8023.740	500,000 -	

人口区分の1.0から8.0の内容は、下記人口区分と同一である

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	3402155427.948		7	486022203.993	1149.272	0.00000
級内	1349037898.268		3190	422895.893		
全体	4751193326.215		3197	1486141.172		

母子保健指導事業のうち、集団と個別に分けた実施状況を、人口区分別に分析した。

4-1. 全国市町村母子保健集団指導事業実施状況

4-1-1. 人口8区分別にみた集団指導事業の実施状況（1989年度）

人口区分別に、集団指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、集団指導事業の対象者、受診者数、健康診査に伴う受診数が増加する。

表4-1-1. 人口8区分別にみた集団指導の対象者（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集対象	2352	796.394	3079.764	3080.419
1(1.0 - 1.0)	146	96.144	207.251	207.964
2(2.0 - 2.0)	392	183.952	330.217	330.639
3(3.0 - 3.0)	522	307.188	548.069	548.595
4(4.0 - 4.0)	586	434.910	375.320	375.640
5(5.0 - 5.0)	348	758.853	583.490	584.331
6(6.0 - 6.0)	232	1802.599	4474.146	4483.820
7(7.0 - 7.0)	118	4158.941	4370.742	4389.381
8(8.0 - 8.0)	8	24840.500	32381.962	34617.773

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	6614648255.730	7	944949750.819	141.135	0.00000
級内	15693945489.697	2344	6695369.236		
全体	22308593745.427	2351	9488980.751		

表4-1-2.人口8区分別にみた集団指導の受診者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集実人員	2676	554.300	2426.469	2426.923
1(1.0 - 1.0)	168	51.232	55.062	55.226
2(2.0 - 2.0)	439	119.087	196.108	196.332
3(3.0 - 3.0)	585	185.085	186.503	186.663
4(4.0 - 4.0)	650	294.674	325.925	326.176
5(5.0 - 5.0)	398	516.593	782.423	783.408
6(6.0 - 6.0)	271	1041.498	1089.167	1091.182
7(7.0 - 7.0)	151	2572.609	3282.870	3293.795
8(8.0 - 8.0)	14	17592.357	24586.547	25514.665

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	4993364751.430	7	713337821.633	176.839	0.00000
級内	10762260188.210	2668	4033830.655		
全体	15755624939.640	2675	5889953.248		

表4-1-3.人口8区分別にみた集団指導の健康診査に伴う受診数
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群(群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集健診 1	2440	376.727	2635.070	2635.610
1(1.0 - 1.0)	149	27.570	41.825	41.966
2(2.0 - 2.0)	403	64.789	95.633	95.752
3(3.0 - 3.0)	538	100.890	139.716	139.846
4(4.0 - 4.0)	595	171.526	275.096	275.328
5(5.0 - 5.0)	367	288.891	373.829	374.340
6(6.0 - 6.0)	243	663.630	886.191	888.020
7(7.0 - 7.0)	133	1619.316	2746.431	2756.814
8(8.0 - 8.0)	12	20833.833	29246.215	30546.675

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	5373474294.592		7	767639184.942	161.372	0.00000
級内	11568897161.168		2432	4756947.846		
全体	16942371455.760		2439	6946441.761		

人口区分別に、集団指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、実施延人員数と健康診査に伴う受診者数が増加する。

表4-1-4.人口8区分別にみた集団指導の実施延人員数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集延人員	2660	752.328	2838.788	2839.321
1(1.0 - 1.0)	163	101.178	122.419	122.796
2(2.0 - 2.0)	435	178.733	261.415	261.716
3(3.0 - 3.0)	585	284.862	402.102	402.446
4(4.0 - 4.0)	649	417.632	507.228	507.620
5(5.0 - 5.0)	397	673.768	841.522	842.584
6(6.0 - 6.0)	269	1325.639	1201.807	1204.047
7(7.0 - 7.0)	149	3467.436	3987.843	4001.293
8(8.0 - 8.0)	13	25271.846	25847.973	26903.423

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	9417724987.768	7	1345389283.967	296.874	0.00000
級内	12018458664.717	2652	4531847.159		
全体	21436183652.485	2659	8061746.391		

表4-1-5.人口8区分別にみた集団指導の健康診査に伴う受診者数（1989年度）
 群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集健診2	2695	388.843	2611.198	2611.683
1(1.0 - 1.0)	223	26.179	48.158	48.267
2(2.0 - 2.0)	467	74.017	134.064	134.208
3(3.0 - 3.0)	581	118.513	201.615	201.789
4(4.0 - 4.0)	627	191.644	318.247	318.501
5(5.0 - 5.0)	383	312.598	436.659	437.230
6(6.0 - 6.0)	255	646.396	908.353	910.139
7(7.0 - 7.0)	146	1768.897	3361.955	3373.529
8(8.0 - 8.0)	13	21207.308	28109.453	29257.246

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	6073973750.462	7	867710535.780	189.533	0.00000
級内	12301497706.831	2687	4578153.222		
全体	18375471457.293	2694	6820887.698		

健診に伴う受診数：健康診査に伴う受診者数

人口区分別に、集団指導事業の実施状況をみると、人口規模が50万人以上を除くと、人口規模が増加するに従って、集団指導1件当りの平均所要時間が増加し、専門的な指導をする未熟児や障害児数が増加する。

表4-1-6.人口8区分別にみた集団指導の1件当りの平均所要時間と専門的な指導をする未熟児や障害児数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集時間分	2818	74.349	88.576	88.592
1(1.0 - 1.0)	235	56.064	78.167	78.333
2(2.0 - 2.0)	479	62.173	77.662	77.743
3(3.0 - 3.0)	611	75.463	88.605	88.677
4(4.0 - 4.0)	651	80.610	86.709	86.776
5(5.0 - 5.0)	398	77.892	88.130	88.241
6(6.0 - 6.0)	276	82.598	97.847	98.025
7(7.0 - 7.0)	155	86.477	116.192	116.569
8(8.0 - 8.0)	13	59.462	56.361	58.662

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	225316.309		7	32188.044	4.133	0.00016
級内	21883842.094		2810	7787.844		
全体	22109158.403		2817	7848.477		

表4-1-7.人口8区分別にみた集団指導の専門的な指導を要する未熟児や障害児数
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群(群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集障害対象	2065	14.501	52.813	52.825
1(1.0 - 1.0)	134	0.642	1.508	1.514
2(2.0 - 2.0)	331	2.613	8.680	8.694
3(3.0 - 3.0)	463	5.158	14.553	14.569
4(4.0 - 4.0)	507	9.134	18.827	18.845
5(5.0 - 5.0)	306	18.775	40.893	40.960
6(6.0 - 6.0)	209	41.986	75.740	75.922
7(7.0 - 7.0)	109	61.064	160.447	161.188
8(8.0 - 8.0)	6	133.000	233.951	256.280

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	611583.623	7	87369.089	34.910	0.00000
級内	5148040.626	2057	2502.694		
全体	5759624.249	2064	2790.516		

人口区分別に、集団指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、受診率が低下するが、人口規模が最も大きい市では、受診率が増加する。対象者に対する未熟児や障害児の割合は増加する。

表4-1-8.人口8区分別にみた集団指導の集団指導受診率（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
RATE	2342	65.086	26.633	26.638
1(1.0 - 1.0)	146	75.052	26.211	26.301
2(2.0 - 2.0)	390	66.811	26.818	26.852
3(3.0 - 3.0)	520	64.083	27.043	27.069
4(4.0 - 4.0)	582	64.447	25.160	25.181
5(5.0 - 5.0)	346	62.987	26.330	26.368
6(6.0 - 6.0)	232	65.725	26.177	26.234
7(7.0 - 7.0)	118	59.219	29.673	29.799
8(8.0 - 8.0)	8	69.488	28.909	30.905

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	22258.410	7	3179.773	4.528	0.00005
級内	1638918.490	2334	702.193		
全体	1661176.899	2341	709.601		

受診率：受診者数／対象数＊100

表4-1-9.人口8区分別にみた集団指導の対象者に対する未熟児や
障害児の割合（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
RATE	2003	2.397	7.907	7.908
1(1.0 - 1.0)	131	1.114	3.832	3.846
2(2.0 - 2.0)	325	1.807	8.126	8.138
3(3.0 - 3.0)	446	1.849	5.800	5.806
4(4.0 - 4.0)	500	2.530	7.058	7.065
5(5.0 - 5.0)	292	2.875	8.142	8.156
6(6.0 - 6.0)	199	4.209	12.322	12.353
7(7.0 - 7.0)	104	2.544	9.984	10.033
8(8.0 - 8.0)	6	6.050	10.868	11.905

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1274.275		7	182.039	2.930	0.00471
級内	123938.823		1995	62.125		
全体	125213.098		2002	62.544		

未熟児や障害児割合：未熟児や障害児数／対象数＊100

4-2. 全国市町村母子保健個別指導事業実施状況

4-2-1. 人口8区分別にみた個別指導事業の実施状況（1989年度）

人口区分別に、個別指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、対象者、受診者数、健康診査に伴う受診数が増加する。

表4-2-1. 人口8区分別にみた個別指導の対象者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個対象	2493	831.953	3276.752	3277.409
1(1.0 - 1.0)	210	79.181	205.182	205.673
2(2.0 - 2.0)	440	158.298	262.849	263.148
3(3.0 - 3.0)	540	287.556	443.666	444.078
4(4.0 - 4.0)	569	453.624	431.642	432.022
5(5.0 - 5.0)	353	860.045	782.068	783.178
6(6.0 - 6.0)	239	1847.795	4459.839	4469.199
7(7.0 - 7.0)	129	4912.721	7611.040	7640.712
8(8.0 - 8.0)	13	15032.846	25565.564	26609.483

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	5576913312.570	7	796701901.796	93.428	0.00000
級内	21190679389.844	2485	8527436.374		
全体	26767592702.415	2492	10741409.592		

表4-2-2.人口8区分別にみた個別指導の受診者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個実人員	2569	637.733	2656.767	2657.285
1(1.0 - 1.0)	174	45.828	38.299	38.410
2(2.0 - 2.0)	428	134.869	125.638	125.785
3(3.0 - 3.0)	561	225.353	241.669	241.885
4(4.0 - 4.0)	594	358.401	331.411	331.690
5(5.0 - 5.0)	391	613.450	579.476	580.218
6(6.0 - 6.0)	262	1301.794	2098.228	2102.244
7(7.0 - 7.0)	145	2751.607	3191.535	3202.598
8(8.0 - 8.0)	14	18101.000	26621.920	27626.872

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	5344153737.852	7	763450533.979	152.882	0.00000
級内	12788910068.499	2561	4993717.325		
全体	18133063806.351	2568	7061161.918		

表4-2-3.人口8区分別にみた個別指導の健康診査に伴う受診数（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個健診 1	2348	337.282	1441.115	1441.422
1(1.0 - 1.0)	157	30.930	34.885	34.997
2(2.0 - 2.0)	397	85.567	97.888	98.012
3(3.0 - 3.0)	506	140.377	170.643	170.811
4(4.0 - 4.0)	553	215.550	256.448	256.680
5(5.0 - 5.0)	359	327.070	413.862	414.440
6(6.0 - 6.0)	233	646.515	846.259	848.081
7(7.0 - 7.0)	131	1593.695	2714.847	2725.269
8(8.0 - 8.0)	12	7170.917	15193.712	15869.314

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	857195801.262	7	122456543.037	71.296	0.00000
級内	4019160371.655	2340	1717589.902		
全体	4876356172.918	2347	2077697.560		

人口区分別に、個別指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、実施延人員数と健康診査に伴う受診者数が増加する。

表4-2-4.人口8区分別にみた個別指導の実施延人員数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個延人員	2561	892.720	3522.880	3523.568
1(1.0 - 1.0)	173	100.017	98.244	98.529
2(2.0 - 2.0)	424	219.974	187.132	187.353
3(3.0 - 3.0)	557	342.230	340.304	340.610
4(4.0 - 4.0)	594	531.118	554.473	554.940
5(5.0 - 5.0)	395	812.233	708.499	709.397
6(6.0 - 6.0)	262	1686.336	2291.682	2296.068
7(7.0 - 7.0)	143	3673.951	4043.418	4057.630
8(8.0 - 8.0)	13	29350.077	34260.840	35659.813

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	12348457003.668	7	1764065286.238	231.726	0.00000
級内	19435299318.594	2553	7612729.855		
全体	31783756322.262	2560	12415529.813		

表4-2-5.人口8区分別にみた個別指導の健康診査に伴う受診者数（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個健診 2	2734	351.291	1695.098	1695.408
1(1.0 - 1.0)	214	36.350	54.755	54.884
2(2.0 - 2.0)	491	97.079	134.496	134.633
3(3.0 - 3.0)	586	158.109	218.909	219.096
4(4.0 - 4.0)	629	230.467	315.068	315.319
5(5.0 - 5.0)	393	341.786	447.013	447.582
6(6.0 - 6.0)	259	678.166	1060.451	1062.505
7(7.0 - 7.0)	148	1434.155	2881.462	2891.246
8(8.0 - 8.0)	14	10367.643	17863.094	18537.409

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1689843011.490	7	241406144.499	106.728	0.00000
級内	6165913806.756	2726	2261890.611		
全体	7855756818.246	2733	2874407.910		

健診に伴う受診数：健康診査に伴う受診者数

人口区分別に、個別指導事業の実施状況をみると、人口規模別で、個別指導1件当りの平均所要時間に大きな変化はなく、専門的な指導を要すると判断された未熟児や障害児数が増加する。

表4-2-6.人口8区分別にみた個別指導1件当りの平均所要時間（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個時間分	2880	27.520	48.351	48.359
1(1.0 - 1.0)	230	24.574	37.778	37.860
2(2.0 - 2.0)	508	25.094	46.843	46.889
3(3.0 - 3.0)	628	29.339	54.027	54.070
4(4.0 - 4.0)	654	25.920	50.811	50.850
5(5.0 - 5.0)	413	30.552	47.889	47.947
6(6.0 - 6.0)	277	30.123	42.571	42.648
7(7.0 - 7.0)	157	26.981	43.149	43.287
8(8.0 - 8.0)	13	21.769	30.431	31.673

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	14885.294	7	2126.471	0.909	0.49817
級内	6718013.538	2872	2339.141		
全体	6732898.832	2879	2338.624		

表4-2-7.人口8区分別にみた個別指導の専門的な指導を要する

未熟児や障害児数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個障害対象	2117	24.536	71.005	71.021
1(1.0 - 1.0)	146	1.397	3.128	3.139
2(2.0 - 2.0)	362	4.169	8.159	8.170
3(3.0 - 3.0)	477	8.061	14.974	14.990
4(4.0 - 4.0)	496	15.139	25.301	25.326
5(5.0 - 5.0)	311	29.395	51.325	51.408
6(6.0 - 6.0)	208	77.014	115.722	116.001
7(7.0 - 7.0)	112	112.652	196.623	197.506
8(8.0 - 8.0)	5	219.600	222.227	248.458

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2041644.238	7	291663.463	71.264	0.00000
級内	8631568.248	2109	4092.730		
全体	10673212.486	2116	5044.051		

人口区分別に、個別指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、受診率が一定に変化する傾向はみられない。対象者に対する未熟児や障害児の割合は、一定に変化する傾向はみられない。

表4-2-8.人口8区分別にみた個別指導の個別指導受診率（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
RATE	2153	75.417	26.270	26.276
1(1.0 - 1.0)	157	72.524	31.056	31.156
2(2.0 - 2.0)	364	78.517	23.614	23.646
3(3.0 - 3.0)	482	77.348	24.094	24.119
4(4.0 - 4.0)	509	77.143	23.848	23.871
5(5.0 - 5.0)	318	72.855	28.118	28.162
6(6.0 - 6.0)	207	73.088	28.383	28.452
7(7.0 - 7.0)	109	64.435	32.126	32.274
8(8.0 - 8.0)	7	76.871	31.519	34.045

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	24495.552	7	3499.365	5.137	0.00001
級内	1461303.233	2145	681.260		
全体	1485798.785	2152	690.427		

受診率：受診者数／対象数＊100

表4-2-9.人口8区分別にみた個別指導の対象者に対する未熟児や
障害児の割合（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
IRATE	1967	4.439	11.111	11.114
1(1.0 - 1.0)	143	3.321	12.294	12.338
2(2.0 - 2.0)	335	3.247	7.926	7.938
3(3.0 - 3.0)	447	4.727	12.980	12.994
4(4.0 - 4.0)	465	4.772	11.557	11.569
5(5.0 - 5.0)	285	3.630	6.512	6.523
6(6.0 - 6.0)	188	6.691	12.876	12.910
7(7.0 - 7.0)	100	5.224	13.202	13.269
8(8.0 - 8.0)	4	5.575	5.712	6.595

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1950.122	7	278.589	2.266	0.02686
級内	240888.755	1959	122.965		
全体	242838.877	1966	123.519		

未熟児や障害児割合：未熟児や障害児数／対象数＊100

4-3.人口8区分別にみた新生児訪問事業の実施状況（1989年度）

4-3-1.人口8区分別にみた新生児訪問事業の実施状況（1989年度）

人口区分別に、新生児訪問事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、対象者、受診者数、健康診査に伴う受診数が増加する。

表4-3-1.人口8区分別にみた新生児訪問指導の対象者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新対象	2088	219.034	1091.961	1092.222
1(1.0 - 1.0)	167	15.383	8.326	8.351
2(2.0 - 2.0)	424	36.479	15.285	15.303
3(3.0 - 3.0)	490	63.573	27.075	27.102
4(4.0 - 4.0)	514	107.982	55.369	55.423
5(5.0 - 5.0)	271	218.207	117.420	117.637
6(6.0 - 6.0)	148	436.568	301.851	302.875
7(7.0 - 7.0)	64	1597.891	1455.704	1467.212
8(8.0 - 8.0)	10	12664.100	7861.807	8287.072

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1716717743.787		7	245245391.970	659.938	0.00000
級内	772967643.866		2080	371619.060		
全体	2489685387.653		2087	1192949.395		

表4-3-2.人口8区分別にみた新生児訪問指導の受診者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新実人員	2174	82.707	541.415	541.539
1(1.0 - 1.0)	168	9.565	6.930	6.950
2(2.0 - 2.0)	424	20.116	15.091	15.109
3(3.0 - 3.0)	495	29.390	26.589	26.616
4(4.0 - 4.0)	526	40.663	47.761	47.807
5(5.0 - 5.0)	278	68.924	89.371	89.532
6(6.0 - 6.0)	183	115.541	173.024	173.499
7(7.0 - 7.0)	85	276.129	586.833	590.316
8(8.0 - 8.0)	15	4663.800	4285.761	4436.184

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	323123107.301	7	46160443.900	318.276	0.00000
級内	314141366.638	2166	145032.949		
全体	637264473.939	2173	293264.829		

表4-3-3.人口8区分別にみた新生児訪問指導の健康診査に伴う受診数
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新健診 1	1672	1.237	17.953	17.958
1(1.0 - 1.0)	138	0.275	1.689	1.695
2(2.0 - 2.0)	333	0.670	3.753	3.758
3(3.0 - 3.0)	383	0.896	6.693	6.702
4(4.0 - 4.0)	410	0.920	8.225	8.235
5(5.0 - 5.0)	213	0.277	1.956	1.960
6(6.0 - 6.0)	121	5.364	57.940	58.181
7(7.0 - 7.0)	62	6.129	35.427	35.716
8(8.0 - 8.0)	12	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	4079.745	7	582.821	1.813	0.08071
級内	534804.991	1664	321.397		
全体	538884.736	1671	322.492		

人口区分別に、新生児訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、実施延人員数が増加する。人口が50万人以上を除けば、人口規模が増加するに従って、健康診査に伴う受診者数が増加する。

表4-3-4.人口8区分別にみた新生児訪問指導事業の実施延人員数（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新延人員	2048	92.027	590.064	590.208
1(1.0 - 1.0)	161	10.559	7.633	7.657
2(2.0 - 2.0)	396	22.308	17.797	17.820
3(3.0 - 3.0)	467	31.876	29.421	29.453
4(4.0 - 4.0)	495	44.899	54.894	54.950
5(5.0 - 5.0)	265	72.694	96.406	96.588
6(6.0 - 6.0)	168	114.292	167.381	167.881
7(7.0 - 7.0)	81	347.123	841.246	846.487
8(8.0 - 8.0)	15	4949.600	4331.001	4483.012

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	365176080.358	7	52168011.480	305.912	0.00000
級内	347887151.165	2040	170532.917		
全体	713063231.523	2047	348345.497		

表4-3-5.人口8区分別にみた新生児訪問指導事業の健康診査に伴う受診者数
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新健診 2	1549	1.001	9.963	9.967
1(1.0 - 1.0)	128	0.156	1.155	1.160
2(2.0 - 2.0)	316	0.854	5.683	5.692
3(3.0 - 3.0)	364	0.629	5.190	5.197
4(4.0 - 4.0)	371	0.949	7.846	7.856
5(5.0 - 5.0)	196	0.673	5.502	5.516
6(6.0 - 6.0)	110	1.173	11.414	11.466
7(7.0 - 7.0)	56	7.464	39.634	39.992
8(8.0 - 8.0)	8	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2521.113	7	360.159	3.670	0.00061
級内	151247.886	1541	98.149		
全体	153768.999	1548	99.334		

健診に伴う受診数：健康診査に伴う受診者数

人口区分別に、新生児訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、集団指導1件当りの平均所要時間が増加する傾向はみられない。しかし、専門的な指導をする未熟児や障害児数が、人口規模が増加するに従って増加する。

表4-3-6.人口8区分別にみた新生児訪問指導事業の1件当りの
平均所要時間（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新時間分	1944	63.052	32.585	32.593
1(1.0 - 1.0)	155	67.555	29.422	29.517
2(2.0 - 2.0)	391	59.496	28.453	28.490
3(3.0 - 3.0)	452	63.507	31.080	31.114
4(4.0 - 4.0)	460	61.639	36.839	36.879
5(5.0 - 5.0)	247	65.117	30.100	30.161
6(6.0 - 6.0)	154	62.649	33.074	33.182
7(7.0 - 7.0)	74	71.635	42.957	43.251
8(8.0 - 8.0)	11	68.000	26.560	27.857

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	15897.736	7	2271.105	2.147	0.03615
級内	2048172.913	1936	1057.941		
全体	2064070.648	1943	1062.311		

表4-3-7.人口8区分別にみた新生児訪問指導事業の
専門的な指導をする未熟児や障害児数（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新障害対象	1723	2.963	16.825	16.830
1(1.0 - 1.0)	145	0.359	0.844	0.847
2(2.0 - 2.0)	354	0.955	6.473	6.482
3(3.0 - 3.0)	400	1.195	2.611	2.614
4(4.0 - 4.0)	411	2.365	5.295	5.302
5(5.0 - 5.0)	214	3.743	6.695	6.711
6(6.0 - 6.0)	129	7.581	16.103	16.166
7(7.0 - 7.0)	62	16.371	54.358	54.801
8(8.0 - 8.0)	8	59.000	153.844	164.466

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	42957.295	7	6136.756	23.663	0.00000
級内	444771.402	1715	259.342		
全体	487728.696	1722	283.234		

人口区分別に、新生児訪問指導事業の実施状況をみると、人口が50万人以上を除けば、人口規模が増加するに従って、受診率が低下する傾向がみられる。対象者に対する未熟児や障害児の割合は、一定に変化する傾向はみられない。

表4-3-8.人口8区分別にみた新生児訪問指導事業の受診率（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
SNRATE	1966	51.040	38.062	38.072
1(1.0 - 1.0)	161	69.859	33.664	33.769
2(2.0 - 2.0)	394	59.511	34.571	34.615
3(3.0 - 3.0)	454	52.675	37.116	37.157
4(4.0 - 4.0)	486	45.202	38.224	38.264
5(5.0 - 5.0)	252	42.154	39.067	39.145
6(6.0 - 6.0)	146	44.390	40.146	40.284
7(7.0 - 7.0)	63	33.408	36.796	37.091
8(8.0 - 8.0)	10	55.910	21.989	23.179

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	149249.058	7	21321.294	15.468	0.00000
級内	2698916.834	1958	1378.405		
全体	2848165.892	1965	1449.448		

受診率：受診者数／対象数＊100

表4-3-9.人口8区分別にみた新生児訪問指導事業の対象者に対する未熟児や
障害児の割合（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
SNSIRATE	1626	2.597	8.699	8.702
1(1.0 - 1.0)	140	2.456	5.578	5.598
2(2.0 - 2.0)	341	2.359	8.962	8.975
3(3.0 - 3.0)	384	2.210	5.383	5.390
4(4.0 - 4.0)	390	3.327	11.148	11.162
5(5.0 - 5.0)	201	1.697	2.867	2.874
6(6.0 - 6.0)	112	3.866	13.201	13.261
7(7.0 - 7.0)	52	2.921	13.772	13.906
8(8.0 - 8.0)	6	0.317	0.664	0.728

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	667.662	7	95.380	1.261	0.26603
級内	122372.441	1618	75.632		
全体	123040.103	1625	75.717		

未熟児や障害児割合：未熟児や障害児数／対象数＊100

4-4.人口8区分別にみた妊産婦訪問事業の実施状況（1989年度）

4-4-1.人口8区分別にみた妊産婦訪問事業の実施状況（1989年度）

人口区分別に、妊産婦訪問事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、対象者、受診者数、健康診査に伴う受診数が増加する。

表4-4-1.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導の対象者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊対象	2067	233.170	1081.109	1081.371
1(1.0 - 1.0)	157	18.662	12.548	12.588
2(2.0 - 2.0)	422	56.597	287.954	288.296
3(3.0 - 3.0)	485	74.499	42.834	42.878
4(4.0 - 4.0)	505	123.390	83.694	83.777
5(5.0 - 5.0)	273	238.513	187.720	188.065
6(6.0 - 6.0)	148	564.541	570.861	572.800
7(7.0 - 7.0)	69	1726.638	2081.703	2096.954
8(8.0 - 8.0)	8	11112.500	10391.603	11109.091

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1155716364.467	7	165102337.781	269.758	0.00000
級内	1260187924.929	2059	612038.817		
全体	2415904289.396	2066	1169363.160		

表4-4-2.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導の受診者数（1989年度）
 群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊実人員	2284	76.966	406.190	406.279
1(1.0 - 1.0)	162	14.512	28.602	28.690
2(2.0 - 2.0)	448	23.388	17.120	17.139
3(3.0 - 3.0)	529	35.138	31.738	31.768
4(4.0 - 4.0)	548	50.861	52.269	52.316
5(5.0 - 5.0)	296	85.057	104.575	104.752
6(6.0 - 6.0)	194	125.830	199.150	199.665
7(7.0 - 7.0)	92	262.250	527.964	530.857
8(8.0 - 8.0)	15	2852.400	3790.912	3923.967

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	122403323.795	7	17486189.114	156.419	0.00000
級内	254434897.541	2276	111790.377		
全体	376838221.336	2283	165062.734		

表4-4-3.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導の健康診査に伴う受診数（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊健診 1	1772	3.674	81.818	81.841
1(1.0 - 1.0)	138	0.167	0.906	0.909
2(2.0 - 2.0)	352	0.966	5.403	5.411
3(3.0 - 3.0)	415	0.764	5.277	5.283
4(4.0 - 4.0)	421	0.753	6.857	6.865
5(5.0 - 5.0)	227	1.322	11.354	11.379
6(6.0 - 6.0)	135	6.881	59.042	59.262
7(7.0 - 7.0)	72	15.292	128.139	129.038
8(8.0 - 8.0)	12	265.333	880.011	919.142

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	845336.023	7	120762.289	19.336	0.00000
級内	11016855.094	1764	6245.383		
全体	11862191.117	1771	6698.019		

人口区分別に、妊産婦訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、実施延人員数と健康診査に伴う受診者数が増加する。

表4-4-4.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導事業の実施延人員数（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊延人員	2166	87.410	436.882	436.983
1(1.0 - 1.0)	158	17.171	14.753	14.800
2(2.0 - 2.0)	421	28.093	24.593	24.622
3(3.0 - 3.0)	499	42.182	42.319	42.362
4(4.0 - 4.0)	521	59.534	66.729	66.793
5(5.0 - 5.0)	284	97.148	133.040	133.275
6(6.0 - 6.0)	178	125.916	190.122	190.658
7(7.0 - 7.0)	90	281.733	547.987	551.057
8(8.0 - 8.0)	15	3157.667	3852.738	3987.963

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	148772927.646	7	21253275.378	173.307	0.00000
級内	264643248.298	2158	122633.572		
全体	413416175.945	2165	190954.354		

表4-4-5.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導事業の健康診査に伴う受診者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊健診2	1577	3.946	93.262	93.291
1(1.0 - 1.0)	125	0.152	0.858	0.862
2(2.0 - 2.0)	322	0.904	5.548	5.556
3(3.0 - 3.0)	373	1.067	7.704	7.714
4(4.0 - 4.0)	374	0.727	5.801	5.808
5(5.0 - 5.0)	196	0.837	5.436	5.449
6(6.0 - 6.0)	117	0.966	7.338	7.369
7(7.0 - 7.0)	60	27.417	208.517	210.277
8(8.0 - 8.0)	10	332.100	996.300	1050.192

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1124582.663	7	160654.666	20.018	0.00000
級内	12591715.756	1569	8025.313		
全体	13716298.419	1576	8703.235		

健診に伴う受診数：健康診査に伴う受診者数

人口区分別に、妊産婦訪問指導事業の実施状況をみると、人口が3000人以下を除くと、人口規模が増加するに従って、集団指導1件当りの平均所要時間が増加し、専門的な指導をする未熟児や障害児数では、一定の関連がみられない。

表4-4-6.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導事業の1件当りの平均所要時間
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群(群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊時間分	1975	54.773	31.990	31.998
1(1.0 - 1.0)	146	58.993	28.608	28.706
2(2.0 - 2.0)	396	53.298	32.384	32.425
3(3.0 - 3.0)	467	52.621	30.050	30.082
4(4.0 - 4.0)	468	54.534	33.385	33.421
5(5.0 - 5.0)	251	55.633	28.913	28.970
6(6.0 - 6.0)	161	55.342	32.310	32.411
7(7.0 - 7.0)	74	63.892	44.075	44.376
8(8.0 - 8.0)	12	63.333	26.575	27.757

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	12921.887	7	1845.984	1.808	0.08160
級内	2008236.491	1967	1020.964		
全体	2021158.378	1974	1023.890		

表4-4-7.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導事業の専門的な指導をする
未熟児や障害児数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊障害対象	1691	2.207	18.268	18.273
1(1.0 - 1.0)	132	0.167	0.566	0.568
2(2.0 - 2.0)	353	0.748	6.516	6.525
3(3.0 - 3.0)	395	1.268	6.497	6.506
4(4.0 - 4.0)	401	1.352	5.479	5.486
5(5.0 - 5.0)	209	1.880	7.144	7.162
6(6.0 - 6.0)	130	5.015	17.545	17.613
7(7.0 - 7.0)	-	-	-	-
8(8.0 - 8.0)	9	2.000	5.657	6.000

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	26338.999	7	3762.714	11.771	0.00000
級内	537972.559	1683	319.651		
全体	564311.558	1690	333.912		

-：不明

人口区分別に、妊産婦訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、受診率が低下する傾向がみられる。対象者に対する未熟児や障害児の割合は一定に変化する傾向がみられない。

表4-4-8.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導事業の受診率（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
RATE	2011	53.366	36.465	36.474
1(1.0 - 1.0)	154	74.608	30.894	30.995
2(2.0 - 2.0)	409	59.300	33.058	33.099
3(3.0 - 3.0)	470	54.326	35.621	35.659
4(4.0 - 4.0)	495	50.393	36.497	36.534
5(5.0 - 5.0)	262	44.704	36.996	37.067
6(6.0 - 6.0)	147	43.705	38.698	38.830
7(7.0 - 7.0)	66	40.305	40.422	40.731
8(8.0 - 8.0)	8	37.625	17.660	18.880

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	135323.370	7	19331.910	15.252	0.00000
級内	2538740.033	2003	1267.469		
全体	2674063.404	2010	1330.380		

受診率：受診者数／対象数＊100

表4-4-9.人口8区分別にみた妊産婦訪問指導事業の対象者に対する未熟児や
障害児の割合（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
NISIRATE	1571	1.842	9.009	9.012
1(1.0 - 1.0)	127	0.939	3.294	3.307
2(2.0 - 2.0)	336	1.624	8.568	8.581
3(3.0 - 3.0)	369	1.976	9.757	9.771
4(4.0 - 4.0)	377	2.594	11.624	11.639
5(5.0 - 5.0)	193	0.973	3.109	3.117
6(6.0 - 6.0)	110	2.337	10.419	10.467
7(7.0 - 7.0)	53	1.453	4.440	4.483
8(8.0 - 8.0)	6	0.033	0.075	0.082

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	539.497	7	77.071	0.949	0.46751
級内	126962.797	1563	81.230		
全体	127502.294	1570	81.212		

未熟児や障害児割合：未熟児や障害児数／対象数＊100

4-5.人口8区分別にみた未熟児訪問事業の実施状況（1989年度）

4-5-1.人口8区分別にみた未熟児訪問事業の実施状況（1989年度）

人口区分別に、未熟児訪問事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、対象者、受診者数、健康診査に伴う受診数が増加する。

表4-5-1.人口8区分別にみた未熟児訪問指導の対象者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未対象	1424	16.751	81.651	81.679
1(1.0 - 1.0)	60	1.917	1.130	1.139
2(2.0 - 2.0)	264	2.420	1.593	1.596
3(3.0 - 3.0)	365	4.137	4.019	4.024
4(4.0 - 4.0)	392	7.145	8.442	8.453
5(5.0 - 5.0)	192	17.109	30.268	30.347
6(6.0 - 6.0)	98	28.755	14.546	14.620
7(7.0 - 7.0)	46	140.348	157.290	159.028
8(8.0 - 8.0)	7	889.857	522.296	564.144

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	6214715.606	7	887816.515	383.415	0.00000
級内	3278820.893	1416	2315.551		
全体	9493536.499	1423	6671.494		

表4-5-2.人口8区分別にみた未熟児訪問指導の受診者数（1989年度）
 群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未実人員	1402	11.715	75.154	75.181
1(1.0 - 1.0)	56	1.482	1.035	1.044
2(2.0 - 2.0)	244	1.902	1.364	1.366
3(3.0 - 3.0)	336	2.893	3.846	3.852
4(4.0 - 4.0)	372	3.892	3.355	3.360
5(5.0 - 5.0)	200	5.740	4.921	4.933
6(6.0 - 6.0)	115	11.887	12.459	12.514
7(7.0 - 7.0)	65	48.538	76.210	76.803
8(8.0 - 8.0)	14	556.214	476.932	494.936

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	4324269.893	7	617752.842	239.581	0.00000
級内	3594387.985	1394	2578.471		
全体	7918657.877	1401	5652.147		

表4-5-3.人口8区分別にみた未熟児訪問指導の健康診査に伴う受診数
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未健診 1	1056	0.394	6.292	6.295
1(1.0 - 1.0)	42	0.262	1.381	1.398
2(2.0 - 2.0)	191	0.037	0.258	0.259
3(3.0 - 3.0)	255	0.078	0.569	0.570
4(4.0 - 4.0)	280	0.175	1.083	1.085
5(5.0 - 5.0)	149	0.188	1.032	1.036
6(6.0 - 6.0)	77	0.078	0.576	0.580
7(7.0 - 7.0)	50	2.720	17.667	17.846
8(8.0 - 8.0)	12	13.250	43.945	45.899

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2331.802	7	333.115	8.845	0.00000
級内	39468.320	1048	37.661		
全体	41800.121	1055	39.621		

人口区分別に、未熟児訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って、実施延人員数と健康診査に伴う受診者数が増加する。

表4-5-4.人口8区分別にみた未熟児訪問指導事業の健康診査に伴う受診者数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未延人員	1308	16.101	96.443	96.480
1(1.0 - 1.0)	51	2.373	2.123	2.144
2(2.0 - 2.0)	225	2.742	3.309	3.316
3(3.0 - 3.0)	313	4.073	4.957	4.965
4(4.0 - 4.0)	343	5.857	15.041	15.063
5(5.0 - 5.0)	189	10.333	45.604	45.725
6(6.0 - 6.0)	109	13.716	13.669	13.732
7(7.0 - 7.0)	64	58.062	96.216	96.977
8(8.0 - 8.0)	14	705.286	545.892	566.498

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	6900291.608	7	985755.944	243.356	0.00000
級内	5265867.071	1300	4050.667		
全体	12166158.679	1307	9308.461		

表4-5-5.人口8区分別にみた未熟児訪問指導事業の健康診査に伴う受診者数
(1989年度)

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未健診2	1005	0.575	7.966	7.970
1(1.0 - 1.0)	44	0.273	1.788	1.809
2(2.0 - 2.0)	187	0.091	0.888	0.890
3(3.0 - 3.0)	243	0.189	1.410	1.413
4(4.0 - 4.0)	264	0.356	3.789	3.796
5(5.0 - 5.0)	141	0.199	1.060	1.064
6(6.0 - 6.0)	71	0.113	0.683	0.688
7(7.0 - 7.0)	45	3.911	20.976	21.213
8(8.0 - 8.0)	10	19.700	59.100	62.297

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	4290.291	7	612.899	10.273	0.00000
級内	59481.287	997	59.660		
全体	63771.578	1004	63.518		

健診に伴う受診数：健康診査に伴う受診者数

人口区別に、未熟児訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模が最も少ない市町村と最も大きい市とでは、最も大きい市の方が約10分ほど多く指導時間を使っている。また、人口規模が大きくなるに従って専門的な指導をする未熟児や障害児数が増加する。

表4-5-6.人口8区別にみた未熟児訪問指導事業の
1件当りの平均所要時間（1989年度）
群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未時間分	1235	63.927	33.920	33.933
1(1.0 - 1.0)	50	63.920	38.047	38.433
2(2.0 - 2.0)	223	62.744	30.989	31.059
3(3.0 - 3.0)	302	65.351	33.318	33.374
4(4.0 - 4.0)	321	61.243	33.503	33.555
5(5.0 - 5.0)	175	63.274	34.512	34.611
6(6.0 - 6.0)	98	67.245	35.286	35.468
7(7.0 - 7.0)	54	71.111	39.806	40.180
8(8.0 - 8.0)	12	72.000	35.157	36.720

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	7959.199	7	1137.028	0.987	0.43870
級内	1412956.242	1227	1151.554		
全体	1420915.441	1234	1151.471		

表4-5-7.人口8区分別にみた未熟児訪問指導事業の専門的な指導をする
未熟児や障害児数（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未障害対象	1137	4.835	24.787	24.798
1(1.0 - 1.0)	47	1.702	5.728	5.789
2(2.0 - 2.0)	210	1.171	1.540	1.543
3(3.0 - 3.0)	278	1.960	2.404	2.408
4(4.0 - 4.0)	297	2.801	4.773	4.781
5(5.0 - 5.0)	161	4.280	6.245	6.264
6(6.0 - 6.0)	86	9.186	13.323	13.401
7(7.0 - 7.0)	47	30.681	70.680	71.444
8(8.0 - 8.0)	11	79.364	173.427	181.892

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	100979.208	7	14425.601	27.253	0.00000
級内	597597.706	1129	529.316		
全体	698576.915	1136	614.944		

人口区分別に、未熟児訪問指導事業の実施状況をみると、人口規模50万人以上を除くと、人口規模が増加するに従って、受診率が低下し、対象者に対する未熟児や障害児の割合は、低下する。

表4-5-8.人口8区分別にみた未熟児訪問指導事業の受診率と対象者に対する未熟児や障害児の割合（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
RATE	1240	70.253	35.236	35.250
1(1.0 - 1.0)	50	92.768	20.311	20.518
2(2.0 - 2.0)	228	86.325	26.089	26.147
3(3.0 - 3.0)	309	77.181	31.753	31.804
4(4.0 - 4.0)	342	65.165	35.486	35.538
5(5.0 - 5.0)	174	53.395	36.443	36.548
6(6.0 - 6.0)	88	54.678	37.401	37.616
7(7.0 - 7.0)	42	47.524	39.010	39.483
8(8.0 - 8.0)	7	79.914	18.295	19.761

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	201064.457	7	28723.494	26.439	0.00000
級内	1338462.892	1232	1086.415		
全体	1539527.348	1239	1242.556		

受診率：受診者数／対象数＊100

表4-5-9.人口8区分別にみた未熟児訪問指導事業の対象者に対する
未熟児や障害児の割合（1989年度）

群変数名：人口8区分階級

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
RATE	1073	45.616	45.877	45.898
1(1.0 - 1.0)	46	55.146	48.333	48.867
2(2.0 - 2.0)	205	50.678	47.831	47.948
3(3.0 - 3.0)	267	52.776	46.131	46.217
4(4.0 - 4.0)	284	44.131	44.840	44.919
5(5.0 - 5.0)	150	35.773	42.367	42.509
6(6.0 - 6.0)	76	39.868	43.493	43.782
7(7.0 - 7.0)	38	25.008	40.215	40.755
8(8.0 - 8.0)	7	7.143	11.536	12.460

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	67285.635	7	9612.234	4.672	0.00004
級内	2191042.883	1065	2057.317		
全体	2258328.518	1072	2106.650		

未熟児や障害児割合：未熟児や障害児数／対象数＊100

指定都市保健所設置政令市 における保健指導と訪問事業の実施状況

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

出生数	26	9274.846	7870.443	8026.309
1(9.0 - 9.0)	17	4586.647	1975.151	2035.939
2(10.0 - 10.0)	9	18130.333	7186.381	7622.308

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1079423461.502		1	1079423461.502	48.777	0.00000
級内	531117419.882		24	22129892.495		
全体	1610540881.385		25	64421635.255		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-13543.686	6.984(24) 0.00000	48.777(1, 24) 0.00000

〔一元配置分散分析〕

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
人口	26	898465.385	759051.145	774083.320
1(9.0 - 9.0)	17	453829.000	170192.335	175430.243
2(10.0 - 10.0)	9	1738334.111	728649.534	772849.540

〔 分散分析表 〕

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	9709341046615.265		1	9709341046615.265	44.211	0.00000
級内	5270783621306.889		24	219615984221.120		
全体	14980124667922.150		25	599204986716.886		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-1284505.111	6.649(24) 0.00000	44.211(1, 24) 0.00000

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

妊娠届出数	26	9750.269	8433.691	8600.711
1(9.0 - 9.0)	17	4736.706	2082.200	2146.283
2(10.0 - 10.0)	9	19220.333	7754.234	8224.607

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1234447923.586		1	1234447923.586	48.185	0.00000
級内	614857739.529		24	25619072.480		
全体	1849305663.115		25	73972226.525		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-14483.627	6.942(24) 0.00000	48.185(1, 24) 0.00000

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
市健婦数	24	62.583	70.356	71.869
1(9.0 - 9.0)	16	26.188	24.653	25.462
2(10.0 - 10.0)	8	135.375	75.407	80.614

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	63583.521	1	63583.521	25.335	0.00005
級内	55214.313	22	2509.741		
全体	118797.833	23	5165.123		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-109.188	5.033(22) 0.00005	25.335(1, 22) 0.00005

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集対象	12	22263.333	26951.522	28149.947
1(9.0 - 9.0)	8	12827.750	7984.659	8535.960
2(10.0 - 10.0)	4	41134.500	38954.623	44980.924

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2136725588.167	1	2136725588.167	3.247	0.10171
級内	6579888942.500	10	657988894.250		
全体	8716614530.667	11	792419502.788		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-28306.750	1.802(10) 0.10171	3.247(1, 10) 0.10171

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

集実人員	21	14495.095	20883.444	21399.162
1(9.0 - 9.0)	13	6729.077	6558.942	6826.763
2(10.0 - 10.0)	8	27114.875	28594.389	30568.687

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2058114256.011	1	2058114256.011	5.507	0.02993
級内	7100368779.798	19	373703619.989		
全体	9158483035.810	20	457924151.790		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----	
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率	
群 1 - 2	-20385.798	2.347(19)	0.02993	5.507(1, 19) 0.02993

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

集健診 1	20	15162.850	24032.307	24656.626
1(9.0 - 9.0)	12	5457.333	6217.281	6493.739
2(10.0 - 10.0)	8	29721.125	32135.006	34353.766

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2825911613.008	1	2825911613.008	5.830	0.02662
級内	8725123743.542	18	484729096.863		
全体	11551035356.550	19	607949229.292		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率

群 1 - 2	-24263.792	2.415(18) 0.02662	5.830(1, 18) 0.02662
---------	------------	---------------------	------------------------

〔一元配置分散分析〕

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

集延人員	21	19750.762	22028.262	22572.251
1(9.0 - 9.0)	13	9178.000	7510.744	7817.430
2(10.0 - 10.0)	8	36931.500	26556.965	28390.590

〔 分散分析表 〕

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	3814604917.810		1	3814604917.810	11.368	0.00320
級内	6375525776.000		19	335553988.211		
全体	10190130693.810		20	509506534.690		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-27753.500	3.372(19) 0.00320	11.368(1, 19) 0.00320

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

集健診 2	21	16804.000	23361.871	23938.794
1(9.0 - 9.0)	14	6422.143	7747.184	8039.633
2(10.0 - 10.0)	7	37567.714	29505.856	31869.967

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	4526884224.857	1	4526884224.857	12.403	0.00228
級内	6934432965.143	19	364970156.060		
全体	11461317190.000	20	573065859.500		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下
 1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下
 Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----	
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率	
群 1 - 2	-31145.571	3.522(19)	0.00228	12.403(1, 19) 0.00228

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集時間分	21	67.000	64.156	65.740
1(9.0 - 9.0)	14	66.714	65.184	67.644
2(10.0 - 10.0)	7	67.571	62.046	67.017

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	3.429		1	3.429	0.001	0.97838
級内	86432.571		19	4549.083		
全体	86436.000		20	4321.800		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-0.857	0.027(19) 0.97838	0.001(1, 19) 0.97838

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
集障害対象	12	92.917	178.321	186.250
1(9.0 - 9.0)	9	36.778	65.550	69.527
2(10.0 - 10.0)	3	261.333	276.557	338.711

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	113456.694	1	113456.694	4.232	0.06671
級内	268122.222	10	26812.222		
全体	381578.917	11	34688.992		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-224.556	2.057(10) 0.06671	4.232(1, 10) 0.06671

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

個対象	20	14174.350	22270.121	22848.662
1(9.0 - 9.0)	12	8075.500	12089.074	12626.626
2(10.0 - 10.0)	8	23322.625	29684.883	31734.475

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1115879139.675	1	1115879139.675	2.282	0.14827
級内	8803286846.875	18	489071491.493		
全体	9919165986.550	19	522061367.713		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-15247.125	1.511(18) 0.14827	2.282(1, 18) 0.14827

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 標準偏差	偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-----------	-----------

個実人員	20	14457.550	23271.730	23876.291	
1(9.0 - 9.0)	12	5770.417	6170.965	6445.363	
2(10.0 - 10.0)	8	27488.250	31840.443	34038.865	

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2263988566.533		1	2263988566.533	4.757	0.04270
級内	8567479982.417		18	475971110.134		
全体	10831468548.950		19	570077292.050		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----	
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率	
群 1 - 2	-21717.833	2.181(18)	0.04270	4.757(1, 18) 0.04270

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

個健診 1	19	6788.053	12885.379	13238.469
1(9.0 - 9.0)	11	4153.364	6456.742	6771.888
2(10.0 - 10.0)	8	10410.750	17729.542	18953.678

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	181348936.902		1	181348936.902	1.037	0.32282
級内	2973278054.045		17	174898709.061		
全体	3154626990.947		18	175257055.053		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-6257.386	1.018(17) 0.32282	1.037(1, 17) 0.32282

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

個延人員	19	22838.895	30374.967	31207.312
1(9.0 - 9.0)	11	7507.909	7947.010	8334.895
2(10.0 - 10.0)	8	43919.000	36563.357	39087.873

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	6140397032.880		1	6140397032.880	9.165	0.00760
級内	11389737144.909		17	669984537.936		
全体	17530134177.789		18	973896343.211		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----	
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率	
群 1 - 2	-36411.091	3.027(17)	0.00760	9.165(1, 17) 0.00760

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個健診 2	22	8678.500	15330.112	15690.870
1(9.0 - 9.0)	14	3608.143	7026.879	7292.137
2(10.0 - 10.0)	8	17551.625	20884.250	22326.202

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	989778079.911	1	989778079.911	4.735	0.04171
級内	4180493545.589	20	209024677.279		
全体	5170271625.500	21	246203410.738		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-13943.482	2.176(20)	0.04171
			4.735(1, 20) 0.04171

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個時間分	21	26.238	34.293	35.140
1(9.0 - 9.0)	14	33.071	39.702	41.200
2(10.0 - 10.0)	7	12.571	9.767	10.549

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1961.167		1	1961.167	1.639	0.21587
級内	22734.643		19	1196.560		
全体	24695.810		20	1234.790		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	20.500	1.280(19) 0.21587	1.639(1, 19) 0.21587

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
個障害対象	9	261.556	311.607	330.509
1(9.0 - 9.0)	7	244.286	306.390	330.939
2(10.0 - 10.0)	2	322.000	322.000	455.377

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	9394.794		1	9394.794	0.076	0.79066
級内	864493.429		7	123499.061		
全体	873888.222		8	109236.028		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-77.714	0.276(7) 0.79066	0.076(1, 7) 0.79066

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

妊対象	14	8339.429	8760.504	9091.205
1(9.0 - 9.0)	9	4793.333	3344.065	3546.916
2(10.0 - 10.0)	5	14722.400	11462.290	12815.230

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	316884744.229		1	316884744.229	5.020	0.04476
級内	757565393.200		12	63130449.433		
全体	1074450137.429		13	82650010.571		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-9929.067	2.240(12)	0.04476 5.020(1, 12) 0.04476

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

妊実人員	22	2271.045	3277.544	3354.673
1(9.0 - 9.0)	13	988.846	865.343	900.677
2(10.0 - 10.0)	9	4123.111	4401.415	4668.405

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	52243780.373	1	52243780.373	5.676	0.02724
級内	184086688.581	20	9204334.429		
全体	236330468.955	21	11253831.855		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-3134.265	2.382(20) 0.02724	5.676(1, 20) 0.02724

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
------------------	-----	-----	------	-------------

妊健診 1	21	203.762	705.927	723.360
1(9.0 - 9.0)	12	91.250	302.642	316.099
2(10.0 - 10.0)	9	353.778	1000.635	1061.333

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	354450.004	1	354450.004	0.666	0.42453
級内	10110533.806	19	532133.358		
全体	10464983.810	20	523249.190		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率 (2群間のみ計算)

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値 (自由度) 有意確率	F 値 (自由度1,2) 有意確率
群 1 - 2	-262.528	0.816(19) 0.42453	0.666(1, 19) 0.42453

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊延人員	22	2521.636	3352.308	3431.196
1(9.0 - 9.0)	13	1148.692	973.302	1013.044
2(10.0 - 10.0)	9	4504.778	4409.835	4677.337

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	59900328.766	1	59900328.766	6.395	0.01996
級内	187334926.325	20	9366746.316		
全体	247235255.091	21	11773107.385		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-3356.085	2.529(20) 0.01996	6.395(1, 20) 0.01996

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊健診 2	20	247.500	789.226	809.729
1(9.0 - 9.0)	11	148.091	468.305	491.162
2(10.0 - 10.0)	9	369.000	1043.690	1107.000

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	241564.091		1	241564.091	0.356	0.55820
級内	12215992.909		18	678666.273		
全体	12457557.000		19	655660.895		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-220.909	0.597(18) 0.55820	0.356(1, 18) 0.55820

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊時間分	21	61.429	39.560	40.537
1(9.0 - 9.0)	12	61.667	45.795	47.832
2(10.0 - 10.0)	9	61.111	29.244	31.018

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1.587		1	1.587	0.001	0.97615
級内	32863.556		19	1729.661		
全体	32865.143		20	1643.257		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	0.556	0.030(19) 0.97615	0.001(1, 19) 0.97615

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
妊障害対象	19	37.474	124.076	127.476
1(9.0 - 9.0)	12	59.333	151.915	158.670
2(10.0 - 10.0)	7	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	15564.070		1	15564.070	0.955	0.34205
級内	276936.667		17	16290.392		
全体	292500.737		18	16250.041		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）	有意確率 F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	59.333	0.977(17)	0.34205 0.955(1, 17) 0.34205

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未対象	15	519.467	502.511	520.149
1(9.0 - 9.0)	10	222.600	122.788	129.430
2(10.0 - 10.0)	5	1113.200	445.669	498.273

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2643894.533	1	2643894.533	30.048	0.00011
級内	1143871.200	13	87990.092		
全体	3787765.733	14	270554.695		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-890.600	5.482(13) 0.00011	30.048(1, 13) 0.00011

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未実人員	22	412.773	427.765	437.832
1(9.0 - 9.0)	13	196.154	116.893	121.666
2(10.0 - 10.0)	9	725.667	511.736	542.778

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1491132.171	1	1491132.171	11.767	0.00265
級内	2534499.692	20	126724.985		
全体	4025631.864	21	191696.755		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-529.513	3.430(20) 0.00265	11.767(1, 20) 0.00265

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未健診 1	21	13.571	42.139	43.179
1(9.0 - 9.0)	13	21.923	51.820	53.936
2(10.0 - 10.0)	8	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2380.220	1	2380.220	1.295	0.26919
級内	34908.923	19	1837.312		
全体	37289.143	20	1864.457		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	21.923	1.138(19) 0.26919	1.295(1, 19) 0.26919

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未延人員	22	509.545	512.996	525.068
1(9.0 - 9.0)	13	230.154	173.676	180.768
2(10.0 - 10.0)	9	913.111	569.301	603.835

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2480562.873	1	2480562.873	14.993	0.00095
級内	3309058.581	20	165452.929		
全体	5789621.455	21	275696.260		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-682.957	3.872(20) 0.00095	14.993(1, 20) 0.00095

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未健診 2	20	16.750	51.109	52.436
1(9.0 - 9.0)	12	27.917	63.575	66.402
2(10.0 - 10.0)	8	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	3740.833	1	3740.833	1.388	0.25403
級内	48500.917	18	2694.495		
全体	52241.750	19	2749.566		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	27.917	1.178(18) 0.25403	1.388(1, 18) 0.25403

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未時間分	21	74.952	32.780	33.589
1(9.0 - 9.0)	12	74.167	35.930	37.528
2(10.0 - 10.0)	9	76.000	28.000	29.698

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	17.286	1	17.286	0.015	0.90520
級内	22547.667	19	1186.719		
全体	22564.952	20	1128.248		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-1.833	0.121(19) 0.90520	0.015(1, 19) 0.90520

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
未障害対象	21	73.429	147.077	150.710
1(9.0 - 9.0)	12	67.500	105.107	109.780
2(10.0 - 10.0)	9	81.333	188.772	200.223

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	984.143	1	984.143	0.041	0.84121
級内	453283.000	19	23857.000		
全体	454267.143	20	22713.357		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値 (自由度)	F 値 (自由度1,2)
		有意確率	有意確率
群 1 - 2	-13.833	0.203(19)	0.041(1, 19)

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

新対象	17	9034.176	7471.859	7701.816
1(9.0 - 9.0)	10	4111.400	2185.187	2303.389
2(10.0 - 10.0)	7	16066.714	6684.776	7220.384

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	588533398.642		1	588533398.642	24.485	0.00018
級内	360554051.829		15	24036936.789		
全体	949087450.471		16	59317965.654		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下
 1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-11955.314	4.948(15) 0.00018	24.485(1, 15) 0.00018

〔一元配置分散分析〕

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

新実人員	22	3741.273	3819.445	3909.326
1(9.0 - 9.0)	13	1376.923	983.437	1023.594
2(10.0 - 10.0)	9	7156.444	3811.153	4042.338

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	177642521.218	1	177642521.218	24.794	0.00007
級内	143296933.145	20	7164846.657		
全体	320939454.364	21	15282831.160		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-5779.521	4.979(20) 0.00007	24.794(1, 20) 0.00007

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新健診 1	21	5.952	26.620	27.277
1(9.0 - 9.0)	12	10.417	34.548	36.084
2(10.0 - 10.0)	9	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	558.036	1	558.036	0.740	0.40030
級内	14322.917	19	753.838		
全体	14880.952	20	744.048		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率 (2群間のみ計算)

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値 (自由度) 有意確率	F 値 (自由度1,2) 有意確率
群 1 - 2	10.417	0.860(19) 0.40030	0.740(1, 19) 0.40030

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

新延人員	22	4155.409	3858.819	3949.627
1(9.0 - 9.0)	13	1885.000	1567.044	1631.031
2(10.0 - 10.0)	9	7434.889	3827.688	4059.876

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	163806736.429	1	163806736.429	20.003	0.00023
級内	163783890.889	20	8189194.544		
全体	327590627.318	21	15599553.682		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-5549.889	4.472(20) 0.00023	20.003(1, 20) 0.00023

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新健診 2	18	9.056	37.337	38.419
1(9.0 - 9.0)	11	14.818	46.859	49.146
2(10.0 - 10.0)	7	0.000	0.000	0.000

[分散分析表]

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	939.308		1	939.308	0.622	0.44175
級内	24153.636		16	1509.602		
全体	25092.944		17	1476.056		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）	有意確率 F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	14.818	0.789(16)	0.44175 0.622(1, 16) 0.44175

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新時間分	20	72.400	39.363	40.386
1(9.0 - 9.0)	12	75.833	44.245	46.213
2(10.0 - 10.0)	8	67.250	29.882	31.945

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	353.633	1	353.633	0.208	0.65396
級内	30635.167	18	1701.954		
全体	30988.800	19	1630.989		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	8.583	0.456(18) 0.65396	0.208(1, 18) 0.65396

[一元配置分散分析]

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
新障害対象	18	49.056	126.235	129.895
1(9.0 - 9.0)	12	34.750	90.603	94.631
2(10.0 - 10.0)	6	77.667	173.668	190.244

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	7367.361	1	7367.361	0.422	0.52526
級内	279469.583	16	17466.849		
全体	286836.944	17	16872.761		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	-42.917	0.649(16) 0.52526	0.422(1, 16) 0.52526

〔一元配置分散分析〕

集団指導の実施率つまり対象者に対する参加者数の割合では、指定都市の方が83.4%と多いものの、保健所設置市に比べて統計的に有意ではない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

SURATE	12	67.667	25.419	26.550
1(9.0 - 9.0)	8	59.800	26.879	28.734
2(10.0 - 10.0)	4	83.400	11.056	12.766

〔 分散分析表 〕

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	1485.227		1	1485.227	2.369	0.15476
級内	6268.580		10	626.858		
全体	7753.807		11	704.892		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-23.600	1.539(10) 0.15476	2.369(1, 10) 0.15476

[一元配置分散分析]

集団指導における未熟児や障害児の対象者に対する割合では、保健所設置市に比べて指定都市の方が統計的に有意に多い。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
SUSIRATE	11	2.945	8.562	8.980
1(9.0 - 9.0)	8	0.163	0.245	0.262
2(10.0 - 10.0)	3	10.367	13.890	17.012

[分散分析表]

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	227.182	1	227.182	3.530	0.09300
級内	579.285	9	64.365		
全体	806.467	10	80.647		

[対比較]

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-10.204	1.879(9) 0.09300	3.530(1, 9) 0.09300

〔一元配置分散分析〕

個別指導の実施率つまり対象者に対する参加者数の割合では、指定都市の方が62.1%と少ない、保健所設置市に比べて統計的に有意ではない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
KORATE	11	68.800	31.621	33.165
1(9.0 - 9.0)	7	72.629	28.958	31.278
2(10.0 - 10.0)	4	62.100	34.810	40.196

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	282.166	1	282.166	0.237	0.63804
級内	10716.914	9	1190.768		
全体	10999.080	10	1099.908		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	10.529	0.487(9) 0.63804	0.237(1, 9) 0.63804

〔一元配置分散分析〕

個別指導における未熟児や障害児の対象者に対する割合では、保健所設置市に比べて指定都市の方が少ないが統計的には、有意ではない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

KOSIRATE	8	3.838	5.116	5.470
1(9.0 - 9.0)	6	4.933	5.477	6.000
2(10.0 - 10.0)	2	0.550	0.550	0.778

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	28.820	1	28.820	0.957	0.36561
級内	180.598	6	30.100		
全体	209.419	7	29.917		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5％水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1％水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	4.383	0.979(6) 0.36561	0.957(1, 6) 0.36561

〔一元配置分散分析〕

妊産婦の実施率つまり対象者に対する参加者数の割合では、指定都市と保健所設置市とでは統計的に有意な差はみられない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
NIRATE	14	44.836	30.066	31.200
1(9.0 - 9.0)	9	46.056	34.726	36.833
2(10.0 - 10.0)	5	42.640	18.785	21.003

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	37.498	1	37.498	0.036	0.85337
級内	12617.614	12	1051.468		
全体	12655.112	13	973.470		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	3.416	0.189(12) 0.85337	0.036(1, 12) 0.85337

〔一元配置分散分析〕

妊産婦訪問指導における未熟児や障害児の対象者に対する割合では、保健所設置市に比べて指定都市の方が少ないが統計的には、有意ではない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

NISIRATE	13	1.315	3.938	4.099
1(9.0 - 9.0)	9	1.900	4.614	4.894
2(10.0 - 10.0)	4	0.000	0.000	0.000

〔 分散分析表 〕

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	9.997	1	9.997	0.574	0.46466	
級内	191.640	11	17.422			
全体	201.637	12	16.803			

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5％水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1％水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	1.900	0.758(11) 0.46466	0.574(1, 11) 0.46466

〔一元配置分散分析〕

未熟児の実施率つまり対象者に対する参加者数の割合では、指定都市と保健所設置市とでは統計的に有意な差はみられない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
MIRATE	15	78.233	23.748	24.581
1(9.0 - 9.0)	10	80.910	26.038	27.446
2(10.0 - 10.0)	5	72.880	17.114	19.134

〔 分散分析表 〕

要因	変	動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	214.936		1	214.936	0.339	0.57041
級内	8244.297		13	634.177		
全体	8459.233		14	604.231		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
	t 値（自由度）	有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	8.030	0.582(13)	0.57041
		0.339(1, 13)	0.57041

〔一元配置分散分析〕

未熟児訪問指導における未熟児や障害児の対象者に対する割合では、保健所設置市に比べて指定都市の方が多いが統計的には、有意ではない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
MISIRATE	15	22.987	38.600	39.955
1(9.0 - 9.0)	10	32.420	43.978	46.357
2(10.0 - 10.0)	5	4.120	8.240	9.213

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	2669.633	1	2669.633	1.763	0.20704
級内	19680.324	13	1513.871		
全体	22349.957	14	1596.426		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5％水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1％水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	28.300	1.328(13) 0.20704	1.763(1, 13) 0.20704

〔一元配置分散分析〕

新生児訪問指導の実施率つまり対象者に対する参加者数の割合では、指定都市と保健所設置市とでは統計的に有意な差はみられない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
-----------------	-----	-----	------	-------------

SNRATE	17	52.665	22.231	22.915
1(9.0 - 9.0)	10	47.920	25.491	26.870
2(10.0 - 10.0)	7	59.443	13.921	15.036

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	546.726	1	546.726	1.044	0.32307
級内	7854.653	15	523.644		
全体	8401.379	16	525.086		

〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度） 有意確率	F 値（自由度1,2） 有意確率
群 1 - 2	-11.523	1.022(15) 0.32307	1.044(1, 15) 0.32307

〔一元配置分散分析〕

新生児訪問指導における未熟児や障害児の対象者に対する割合では、保健所設置市に比べて指定都市の方が少ないが統計的には、有意ではない。

群変数名：9.0:保健所設置市、10.0:指定都市

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	標準偏差	不 偏 標準偏差
SINSIRATE	14	0.771	1.808	1.876
1(9.0 - 9.0)	10	0.900	2.068	2.180
2(10.0 - 10.0)	4	0.450	0.779	0.900

〔 分散分析表 〕

要因	変 動	自由度	不 偏 分 散	F 値	有意確率
級間	0.579	1	0.579	0.154	0.70196
級内	45.190	12	3.766		
全体	45.769	13	3.521		

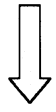
〔対比較〕

Bonferroniの基準：全体で5%水準 --> 各検定の有意確率 0.05000 以下

1%水準 --> 各検定の有意確率 0.01000 以下

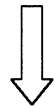
Scheffe の基準：各検定の有意確率（2群間のみ計算）

2群の組	平均値の差	-- Bonferroniの方法 --	----- Scheffeの方法 -----
		t 値（自由度）有意確率	F 値（自由度1,2）有意確率
群 1 - 2	0.450	0.392(12) 0.70196	0.154(1, 12) 0.70196



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 目的

今後の母子保健事業を効果的、効率的に実施するためには、現在の母子保健事業の実施状況を明らかにして、その課題を具体的に抽出する必要がある。

この調査研究では、全国の市町村における母子保健事業のうち、訪問活動と、指導事業に焦点をあてて、人口規模別ないし、政令市、保健所設置市別にみた訪問と指導事業における事業の実態を把握することによって、今後の効果的な母子保健システムを検討するために不可欠な施策立案の基礎資料を得ることを調査の目的とした。